

MOTOR SPORTS REPORT

JRC/APRC

全日本ラリー選手権/アジアパシフィックラリー選手権

JN6 クラスで ADVAN-PIAA Rally Team が 2 位、

Syms Racing with TEIN が 3 位で表彰台を獲得！

JN5 クラスでは MINI JCW が 3 位、 JN3 クラスでは M スポーツデミオが 2 位入賞

JRC で PIAA ユーザーが躍進。APRC では HASEPRO ランサーがサバイバルラリーを走破！



惜しくも2位フィニッシュながらポイントリーダーに躍り出たADVAN-PIAA LANCER



SYMS TEIN DUNLOP WRX (JN6クラス3位)



MINI JCW (JN5クラス3位)

■概要/Outline

国内外のレースシーンで活躍する PIAA はラリー競技においても名門として定着している。WRC（世界ラリー選手権）で数多くのワークスチームをオフィシャルサプライヤーとしてサポートするほか、JRC（全日本ラリー選手権）でも PIAA のサポートドライバーが活躍。9月23日～25日、JRCのシリーズ第7戦および APRC（アジアパシフィックラリー選手権）の第5戦として北海道帯広市を中心に広大な十勝地方を舞台に開催された「ラリー北海道」は、JRCでも総走行距離750kmを超え、スペシャルステージ(SS)も150km以上という国内屈指の過酷なグラベル（非舗装路）※一部SSはターマックあり、グラベルとターマックが混在するSSあり」という難コースのラリーで、その中でも PIAA ユーザーが各クラスでトップ争いを展開していた。

まず JRC において、ADVAN-PIAA Rally Team の奴田原文雄選手・佐藤忠宜選手組が三菱ランサーエボリューションXを武器にシリーズ最高峰の JN6 クラスで2位に入賞。同時に Syms Racing with TEIN で VAB 型スバル WRX を駆る鎌田卓麻選手・市野 諒選手組も3位で表彰台を獲得している。

さらに混戦の JN5 クラスに目を向けると MINI JCW RALLY TEAM で MINI ジョンクーパーワークスを駆る大橋逸夫選手・藤上 巨選手組が3位で表彰台を獲得するほか、JN3 クラスではエムスポーツでマツダ・デミオを駆る南野 保選手・Paul Santo 選手組が2位で表彰台を獲得したことも今大会のトピックスと云っていい。



ADVAN-PIAA LANCER（JN6クラス）



SYMS TEIN DUNLOP WRX（JN6クラス）



M-Sports DEMIO 1号（JN3クラス3位）



M-Sport DEMIO 2号（JN3クラス）



MINI JCW (JN5クラス)



ARTA オートボックス 86 (JN4クラス)

そのほか、APRC に目を向けると HASEPRO RACING で三菱ランサーエボリューションXを駆る長谷川智秀選手・角田大輔選手組もサバイバルラリーを走破し、11位で完走を果たすなど、2016年のラリー北海道でも各クラスでPIAAユーザーが躍進している。



HASEPRO LANCER



MINI JCW CROSS OVER



総走行距離 750kmを超える過酷なラリー



セレモニアルスタート前の全クルー集合

■レポート/Report

北海道十勝地方の広大なフィールドを舞台に2002年にスタートした国際ラリーイベント、ラリー北海道もついに2016年の大会で15回目の開催を迎えた。今大会にもAPRCおよびJRCに数多くのチームが集結。雨に祟られた金曜日のSS1（ウェット）とは対照的に土曜日のデイ1（前半ウェット～ハーフウェット、後半ドライ）、日曜日のデイ2（ドライ）ともに好天に恵まれたことからハイスピードラリーが展開され、序盤から数多くのチームが脱落するサバイバルな展開となるなか、PIAAのサポートドライバーたちは素晴らしい走りを披露していた。

そのなかで最も素晴らしい走りを披露したのが、JRC最高峰のJN6クラスに参戦したADVAN-PIAA Rally Teamの奴田原選手・佐藤選手組にほかならない。ドライバーの奴田原選手はこれまで最多の9度に渡って最高峰クラスのチャンピオンに輝いているドライバーで、ラリー北海道では2014、2015年に連覇をしており、2016年のラリー北海道でもPIAAのライティングシステムおよびシリコンゴムワイパーを装着した三菱ランサーエボリューションXで素晴らしいパフォーマンスを披露していた。



まず、雨に祟られた9月23日の夕刻、PIAAのライティングシステムおよびシリコンゴムワイパーを武器にオープニングのSS1（サツナイリバー）でベストタイムを叩き出すと、翌24日は好天に恵まれたものの前日の雨や台風10号による影響で荒れた路面状況の中でも安定した走りを披露。10本中4本のSSでベストタイムをマークし、後続に約6秒の差を付けてデイ1をトップでフィニッシュ。翌25日のレグ2では後続の猛追で首位を明け渡すものの、トップとわずか3.7秒差の2位入賞で表彰台を獲得。タイトル奪還に向けて前戦までのシリーズランキング2位から首位に躍り出た。



これと同様にSyms Racing with TEINの鎌田選手・市野選手組もJN6クラスで活躍したドライバーのひとり。鎌田選手はAPRCやWRC、PWRC（プロダクションカー世界ラリー選手権）など海外ラリーで活躍してきたドライバーで、2014年にはスバルBRZを武器にJRCのJN5クラスを制覇するなど豊富な実績を持つ。今大会もPIAAのライティングシステムを装着したVAB型のスバルWRXを武器に安定した走

りを披露していた。奴田原選手に続いてナイトステージのSS1で2番手タイムをマークすると、その後もSS8でベストタイムを叩き出すほか、計6本のSSで2番手タイムを叩き出し、レグ1を3番手でフィニッシュ。翌日のレグ2でもSS16でベストタイムを叩き出すほか、コンスタントな走りで好タイムを連発し、3位入賞で今季3度目の表彰台を獲得した。

一方、2WDの最速クラスとなっているJN5クラスでもPIAAユーザーが活躍していた。MINI JCW RALLY TEAMの大橋選手・藤上選手組がPIAAのLEDライティングシステムを装着したMINI ジョunkerパーワークスで安定した走りを披露。デイ1で足回りにトラブルを抱えながらもメカニックの懸命な修復作業と最後まで粘り強い走りで3位入賞を果たし、今季2度目の表彰台を獲得した。



さらにコンパクトモデルを主体にしたJN3クラスにおいてはエムスポーツでマツダ・デミオを駆る南野選手・Santo選手組が好タイムを連発。最新のLEDバーランプを武器にナイトステージのSS1でベストタイムをマークすると翌日のレグ2でも計5本のステージで2番手タイムを叩き出すほか、再びナイトステージのSS11を制し、クラス2番手でデイ1をフィニッシュしている。デイ2でも南野選手・Santo選手組の安定感は高く、SS15でセカンドベスト、SS16でベストタイムを叩き出し、激戦のJN3クラスで2位入賞。これと同様にチームメイトの唐釜真一郎選手・松浦俊朗選手組もマツダ・デミオを武器に計4本のSSでセカンドベストをマークしており、上位を好走中のレグ1で不運なタイヤバーストを喫しながらもST3クラスで4位完走を果たした。



またAPRCに目を向けるとHASEPRO RACINGで三菱ランサーエボリューションXを駆る長谷川選手・角田選手組もPIAAユーザーのひとりで、1年ぶりのラリー参戦ながらブランクを感じさせない走りを披露。数多くのエントラントが相次いで脱落するサバイバルラリーが展開されるなか、見事11位で完走を果たした。

そのほか、マシントラブルでリタイアするものの、トヨタ86を武器にJRCのJN4クラスにトヨタ86で参戦していたARTAオートバックスラリーチームの石川昌平選手・石川恭啓選手組が計4本のSSでベ

ストタイムをマークするほか、MINI JCW クロスオーバーで APRC に参戦した宮本康二選手・奥村久継選手組が過酷な一戦にチャレンジ。

このように 2016 年のラリー北海道でも PIAA ユーザーが各クラスで躍進しており、難攻不落のラリーで素晴らしい走りを披露することによって、改めて PIAA のライティングシステムおよびシリコンゴムワイパーのパフォーマンスを証明した。



■ユーザーの声/User's Voice

奴田原文雄/Fumio Nutahara

ADVAN-PIAA Rally Team/ドライバー

マシン：三菱ランサーエボリューション X (JN6 クラス)

「純正のハロゲンが暗かったので今年からハイビーム、ロービームともに PIAA の LED ヘッドライト用バ

ルブに変更しているんですけど本当に明るいんですね。リエゾンではランプポッドを使用しないので、ヘッドライトだけで夜間のラリールートを行くんですけど真っ暗な北海道にも十分に明るかった。明るいLEDだと見やすいし、何よりも安全に運転することができます。純正のヘッドライトを手軽に明るくしたいオーナーはPIAAのLEDを試してみるといいと思います。」



大橋逸夫 / Itsuo Ohashi

MINI JCW RALLY TEAM / ドライバー

マシン : MINI ジョンクーパワークス (JN5 クラス)

「ランプの数が違うだけに、昨年まで使用していた MINI JCW クロスオーバー (4灯) と比べると今年は MINI のフロントデザインにナチュラルにマッチするように2灯を選択したので、明るさ自体は敵いませんが、もともと純正ヘッドランプのパフォーマンスは限られているので、ヘッドランプだけではナイトステージでは厳しいですね。そういった意味では PIAA の補助灯 (LED ランプ) が照射範囲を補っているのが良かった。サツナイのナイトステージでは十分の明るさだし、カバー範囲も広いので MINI の純正ヘッドランプとのバランスは最適でした。」



南野保/Tamotsu Minamino

エムスポーツ/ドライバー

マシン：マツダ・デミオ（JN3クラス）

「今回初めてPIAAのLEDランプをボンネットに装着してみたんですけど本当に明るいです。今までハロゲンのランプポッドを使っていたんですけど、それに比べても十分に明るいし、照射範囲も広いのでライトとしての実力は十分です。それに大きさもコンパクトだから死角が少なく視認性も高い。出走順が遅くて暗くなるので、デイ1はサツナイのスーパーSSだけでなく、その手前の林道SSからLEDランプを装着していたんですけどコンパクトで明るいので助かりました。」



■ PHOTO GALLERY



